

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表 2020年度

法人名	NPO 法人ワーカーズ ユープかがやき	代表者	新井 厚美	法人・ 事業所 の特徴	一人ぼっちにしない、寝たきりにならないしないを理念に、利用者一人一人に寄り添い、「通い」「訪問」「泊まり」を柔軟に組み合わせることにより、住み慣れた地域でその人らしい暮らしが続けられるように支援いたします。
事業所名	四季のベンチ	管理者	松崎 裕子		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する 取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	職員ができないことや分からないことを一人で抱え込まないように、ペアを作ってお互いに目標を評価したり、分からないことを聞きやすい環境にしました。これがどの程度、活かされ効果があるのか1年を通してみていく。	ペアでお互いに評価をしあうことは、一定の成果はあったものの、職員が辞めてしまったり、あまり来ない非常勤とペアになるとあまり話ができないというデメリットがあった。	去年の運営推進委員の意見で、事業所評価は常勤だけでいいのではというご意見を頂いた。しかし、同じ仕事をしている職員として、事業所の評価は働いているものがするという職員の意見もあり、職員全員参加にて行なった。	利用者の状態に合わせて、利用を検討していく上で、ケアマネだけでなく、職員の考えを取り入れていく。朝夕のミーティングで常に話をして、利用者にとって最善とは何かを考えていく。体調に合わせた利用だけでなく、家族の心のケアも含めた支援をしていく。
B. 事業所のしつらえ・環境	インフルエンザ予防は、冬の最大の課題である。昨年、除菌消臭剤「ビエリモ」の効果があったので引き続き使用していく。今年もインフルエンザを出さない・広げない。	インフルエンザよりコロナ感染症のため、感染予防は徹底的にされた。空気清浄機の購入のほか、感染予防に必要な物資の確保、消毒・換気の徹底など行なっている。	運営推進委員のメンバーに知っていただくために見学をしてもらった。その後も開かれた事業所を目指していたが、コロナのため誰でもいつでも受け入れることは、難しかった。	コロナ感染予防の徹底。換気をする。利用者さんに負担の無い方法で感染予防を続けていく。
C. 事業所と地域のかかわり	地域資源とは何か？との勉強会をして、地域とのかかわりを意識する。できれば四季のベンチが地域資源となるようにする方法を考える。	勉強会で地域資源の勉強をする予定であったが、水害対策やコロナ対策の勉強会がメインとなって地域資源まで目が向けられなかった。地域との関りもコロナのため薄くならざるを得なかった。	ボランティアの受け入れが困難になってしまい、地域との関わりが薄くなってしまった。サロンもなくなり利用者さんの参加が出来なくなった。	コロナ禍での地域との関り方を模索していく。今までボランティア参加の充実があげられていたが、ボランティアの受け入れの制限がある中での地域の活動を考えていく。

D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	利用者の思いを大切にし、以前の暮らしに近づけるように個別の対応をきちんとする。(妻に会いに行く・買物を自分でする・散歩をする・近所の友達とお茶を楽しむ・歩く訓練をするなど)	外出する機会が減ってしまったが、ベンチの室内での機能訓練を行うことはできた。介護計画書で計画を立て、歩行訓練や立位の訓練を行なった。	地域の医療と連携できており、必要に応じて看取りまでできる体制と実績がある。	利用者の外出が難しくなっているため、個別対応で買物支援や散歩支援を実施していく。
E. 運営推進会議を活かした取組み	職員の参加回数を増やし、四季のベンチの様子や状況を話す。運営推進会議は会議室で行なっているが、実際に四季のベンチ職員と利用者様の様子を見て頂く。	コロナ感染予防のため、運営推進会議の開催が2回に留まってしまった。今年度からメンバーも変わったので、十分に話ができずに終わってしまった。	コロナ感染症のため、今年度に限っては2回の開催となり十分な話ができなかった。	運営推進会議の開催が難しいときには、手紙や電話で意見を聞き、運営推進会議が定期に開かれるまで情報を提供したり、地域の問題を話し合ったりする。
F. 事業所の防災・災害対策	例年通り、防災訓練年2回と水害訓練を行なう。回覧板で地域の参加を呼びかける。家族に水害時にどうして欲しいか、個別に意見をいただき、対応方法を検討する。	防災訓練は、2回行なっている。例年地域に参加を呼びかけたり、家族に参加してもらったりしていたが、今年度は密になることを避けたため職員と利用者とは行なった。水害については、市や危機管理課と話をし、四季のベンチが避難には適さないことがわかったため、個別にどうするかの話し合いをして一覧とした。	地域と情報を共有しており、この取り組みを続けていきたい。	水害対策については、地域の問題として一緒に考えていく必要がある。地域全体の問題とし、地域の訓練等に参加し、イニシアティブをとる。